

羽曳が丘町会連合会 第一回安全委員会

(目的)

羽曳が丘地域の安全と安心を確保するための自主的防災・防犯とまちの美化運動に務めること。

(内容)

① 防災関連

- 1 災害時に活用できるよう各集会所、町会の防災倉庫内の備品リストを熟知しておくこと。
- 2 「在宅避難体験」に協力すること。
- 3 地域の環境を調査し、各地区の公園および公共施設の現状を把握。災害時のハザードマップ等の資料を参考に、日頃から対応できるような体制を整えておくこと。

② 防犯関連

- 1 町会連合会所有の青色パトロール車にて地域全体をパトロール(連合会役員等)。並びに子どもの安全見守り活動をおこなうこと。
- 2 安全委員は担当町会の「ながら見守り」をおこない(リストバンド着用)、不審な点があれば警察に連絡、対応すること。
- 3 各町内に防犯カメラを取付け、犯罪や交通事故等が発生した場合は、警察に連絡すること。
- 4 連合会が主体となって実施する歳末夜警は、全町会参加で各集会所を起点に巡回。
今年12月26日・27日に実施。

② まちの美化運動

- 1 路上のごみ、廃棄物、雑草等の除去にも取り組むこと。
- 2 犬の糞尿についてのマナーの周知。

以上、3項目を安全委員会にて運営実行します。みなさまのご協力をお願いします。

◆羽曳が丘地区の避難所・避難場所

①災害が起きたら

はじめに「自分の安全」を第一に行動すること。次に「家族」「隣近所」の安否確認を。

②避難行動について

1. 自宅に被害がなく(少ない場合)、安全な時は自宅で避難を！

安否確認のために、門扉や玄関にタオルやハンカチなどを結んでおくこと。

2. 自宅に大きな被害があり、住めないと判断した時は、近くの避難所に移動すること。

■指定緊急避難場所

災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に一時的に避難する場所。

■指定避難所

災害の危険性があり自宅から避難した住民や、災害により自宅に戻れなくなった住民が、一定期間滞在するための施設。

■福祉避難所(LIC はびきの／軽里 1-1-1)

高齢者、障がい者、妊産婦等、一般の避難所では生活に支障をきたす人たちのために配慮された避難所。災害発生後に必要が認められた場合に開設。

	施設名	所在地・住所
指定 緊急 避難 場所	大阪府立環境農林水産総合研究所	尺度 442
	道の駅しらとりの郷・羽曳野	埴生野 975-3
	羽曳が丘北公園	羽曳が丘 1-201
	羽曳が丘中公園	羽曳が丘 3-202
	健康ふれあいの郷グランドゴルフ場	羽曳が丘 9-35-1
	羽曳が丘東公園	羽曳が丘 3-201-1
	羽曳が丘南公園	羽曳が丘 7-201
	羽曳が丘西北公園	羽曳が丘西 2-6-1 外
	羽曳が丘西中公園	羽曳が丘西 3-4-5
	羽曳が丘西公園	羽曳が丘西 4-3-14
	羽曳が丘西南公園	羽曳が丘西 1-2-4
	羽曳が丘ネオポリス公園	羽曳が丘西 5-5-28 外
	学園前1丁目公園	学園前 1-320-80
	羽曳が丘10丁目公園	羽曳が丘 10-400-195
指定 避難所	羽曳が丘小学校	羽曳が丘 6-8-1
	峰塚中学校	西浦 6-48
その他の 避難所	MOMOプラザ	羽曳が丘西 2-5-1
	高年生きがいサロン6号館	羽曳が丘 3-1-13

※「その他の避難所」には各集会所も含まれます。上記の指定避難所だけではスペースが不足する場合等、必要に応じて開設されます。

(2024 羽曳野市 暮らしの便利帳より抜粋)

各集会所 管理者&鍵所有者

	第一集会所 958-4125	第二集会所 959-0360	第三集会所 958-9571	西7集会所
管理&鍵所有者	橋本敦子 090-7348-2676	三好広一 080-5709-2337	間宮公一 080-2471-9710	
事務所鍵所有者	なし	同上	同上	
全集会所管理者	南里毅 (090-1596-5335)			
防災倉庫鍵所有者	連合会役員			
防災倉庫内 機材リスト	アルミ製組立てリヤカー (1台) 一輪車(ノーパンク) (1台) スリーピングバッグ (3枚) ハンド型メガホン (1台) チェンソー (1台) ハンマー (2個) 発電機 (1台) アルミ製車椅子 (1台) 20L ガソリンタンク (1缶) ニッパー (2台) 等身大バール (3個) 携帯コンロ (1台)			

羽曳が丘小学校(プール横) 機材リスト (鍵/南里)

アルミ台車タイプ工具セット	1	排便処理袋	5箱
アルミ製組立てリヤカー	1	圧縮処理袋	2箱
LED バルーン投光器	1	生理用品	30セット
カセットガス発電機	2	大人用おむつ	1箱
エンジンチェンソー	1	紙おむつ	1箱
油圧ジャッキ	1	小型投光器	3台
コードリール	1	コンパネ	5枚
毛布	380枚	トイレットペーパー	1箱
ブルーシート	50枚	携帯ラジオ	3台
簡易テント	10セット	非常用飲料水	48本
簡易トイレ	3台	ガスボンベ	13セット

災害から「命」を守るだけでなく「生活」を守る。災害が起こったら、

「在宅避難」も選択肢のひとつです。

災害は季節や時間を問わず襲ってきます。起こったら咄嗟の判断が必要となります。少しでも危険を感じる場合には、地域防災拠点などの安全な場所への避難を。しかし自宅とその周辺の安全が確認できれば、自宅で生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。在宅避難ができるかどうか迷ったら、次のチェックポイントを確認しましょう。その行動が真の防災になります。

在宅避難と判断するための4つのポイント

1. 自治体の避難指示、勧告を確認する。
2. 周辺道路が移動可能かどうか、確認をする。
3. 家屋の被害状況を見て、引き続き生活できるかどうか確認する。
4. 自宅、周辺の家に倒壊、火災の恐れがないかどうか確認する。

■在宅避難のメリット(長所)	■在宅避難」のデメリット(短所)
<ul style="list-style-type: none">・家族と普段に近い環境で生活できる！・プライバシーが守れ、ストレスを軽減できる！・感染症のリスクを減らすことができる！	<ul style="list-style-type: none">・生活物資の支給をすぐに受けられない・電気、ガス、水道が使えない可能性があります・最新情報を得ることが難しいケースも

備えあれば憂いなし。連合会は「在宅避難体験」を提案します。

在宅避難体験を行い、その結果から備える

今あるもの(日用品)が今住む場所(自宅)で、普段通り使用できるか実践する



災害時の精神的・身体的なストレスを減らす防災

実は日本の災害において、餓死した人はいません。水道・電気・ガスなどのインフラの制限で心配するのは食料不足ではありません。最新の研究では災害時の精神的・身体的なストレスが原因で亡くなる人が増えているのです。

いま必要なのは災害後のストレスを減らす環境を整える準備をする防災、「在宅避難体験」です。



家族そろって

在宅避難体験

在宅避難体験 チェックリスト

ある日突然、災害に襲われたとしたら。水道、電気、ガスが使えなくなったとしたら。あなたの家族はどのようにして「在宅避難」をしますか。もしもに備えて、提案します。

ある一日だけ(日時は自由)、以下の項目より任意に選び体験してください。体験後項目にチェックを入れ(できそうなことだけでOK)、最後に体験談をお寄せください。「町会だより」に掲載し、今後の災害対策に役立たせていただきます。(※体験内容・日数・時間は自由です)

断 水	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・風呂に溜めた水で流す ・簡易トレイを使用する
	飲料	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルを家族分準備する
	バス	<ul style="list-style-type: none"> ・風呂、シャワーは我慢して体拭きシートを使う
	料理	<ul style="list-style-type: none"> ・皿にラップを敷いて洗い物をなくす
	水分補給	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜ジュースやフルーツ缶を準備する
	洗濯	<ul style="list-style-type: none"> ・一日だけなら消臭スプレーで乗り切る

停 電	照明	<ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯やランタンを用意する
	冷蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・一日中使わないようにする
	スマホ	<ul style="list-style-type: none"> ・充電しておく
	娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビは我慢する
	エアコン	<ul style="list-style-type: none"> ・うちわを用意。窓は網戸にする

ガス供給停止	燃料	<ul style="list-style-type: none"> ・カセットコンロとボンベを使って調理する
	調理	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファ米、冷食、レトルト食品、カップ麺などを食べる
		<ul style="list-style-type: none"> ・まな板を使わずキッチンバサミで調理する
		<ul style="list-style-type: none"> ・食材をポリ袋に入れ湯煎して調理する
		※衛生には十分注意する

資 料

在宅避難のためには、日頃からご自宅に食料品や生活必需品を**最低3日分(できれば1週間分)**備えておくことが大切です。

以下の備蓄リストを参考に自分の家族の性別、年齢、ペットなど、家族構成に応じて必要な備蓄を行うことをおすすめします。

非常食 (3～7日分)

レトルト食品・袋麺 カップ麺・袋麺 ドライスープ、パスタ	・お湯を用意できれば食べられる食品の幅を広げてくれる。
缶詰、びん詰	・ツナ、サバ、イワシ、サンマなど魚介の缶詰や、コンビーフ、牛肉の大和煮、焼き鳥など肉類の缶詰など、缶詰は長期保存ができる上、手軽にたんぱく質をとることができ、しかも経済的。
フルーツ缶 野菜ジュース ゼリー飲料	・水分補給に役立つ。
スイーツ	・甘い物を食べるとストレス解消になる。缶詰タイプで2～3年の長期保存可能なガトーショコラやチーズケーキなどがある。羊かんやわらび餅なども日持ちするのでおすすめ。
粉ミルク、離乳食 お粥	・子どもやお年寄り、病人のことを忘れないように用意する。
乳児用液体ミルク	・被災のストレスで母乳が出なくなることがある。粉ミルクだと沸騰したお湯が必要ですが、液体ミルクならそのまま使える。乳児のいる家庭には必要である。
その他	・干物、乾物、携帯おにぎり、インスタントみそ汁、即席スープ、乾パン、アルファ米、カロリーメイト、ビスケット、ライスペーパーなど。 ・非常食を食べるには、飲料水が不可欠。

調理法

空中調理	・断水時には、まな板もきちんと洗えない状態となるので、まな板を使わずキッチンバサミで空中で食べ物をカットし調理する。
パッククッキング	・耐熱性のあるポリ袋に食材を入れて湯せんで火を通す調理法。 カセットコンロ、鍋、水、ポリ袋を準備すれば簡単な食事を作ることができる。

<注意事項 ①>

① 日頃から、栄養バランスや使い勝手を考えて各家庭に合った食品を選ぶことが大切です。

- ・家庭にある食品をチェックする。
- ・栄養バランスを考え、家族の人数や好みに応じた備蓄内容・量を決定。
- ・賞味期限が切れる前に消費し、消費したものは買い足す。

② ビタミン、ミネラル、食物繊維が豊富にとれるじゃがいも、たまねぎ、カボチャなどの日持ちする野菜は、日頃から多めに買い置きしておくこと。野菜不足から便秘・口内炎などに悩むことがある。

★ライフラインが使えなくなった場合の対処法

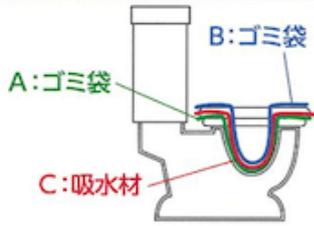
断水

<p>水道</p>	<p>ペットボトル、ポリタンク、給水袋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道水は3日程度は飲料水として使用可能。清潔な容器に口もといっぱいまで水道水を入れてしっかりと蓋を閉め、直射日光を避けて室温の低い所に保存する。 ・保存水と呼ばれるミネラルウォーターの賞味期限は、5年～10年。通常のミネラルウォーター（約2年程度）の2倍から5倍ほど長持ちするので、備蓄水として最適。 ・水以外にも、お茶や清涼飲料水、野菜ジュースなども用意する。 ・飲料水は1人1日3リットルが目安。使用するときには必ず煮沸してから（子どもや病人にはミネラルウォーターを）。生活用水（炊事洗濯など）は浴槽や洗濯機に貯水しておく。 <p>ウォーターバッグ（1人2～3リットル/1日分）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給水所から水を持ち帰るために、持ち出し用防災リュックに入れておく。
<p>風呂・シャワー 歯磨き</p>	<p>ウェットティッシュ（体拭きシート）</p> <p>食事後の手口拭きとしてはもちろん、断水時にはシャワーを浴びられなくなるので体拭きとするなどして清潔に保ちます。</p> <p>ドライシャンプー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を使わなくても髪をスッキリできる。ニオイも抑えることでストレスも軽減。 <p>歯磨きシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断水で数日間も歯が磨けないと、口臭や口の中のべたつきが気になるうえに、口腔内感染による体調不良のリスクがあるので用意しておく。
<p>トイレ</p>	<p>簡易トイレ、携帯用トイレ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易トイレは汚物袋、防臭袋、凝固剤がセット。普通のビニール袋では防臭できず、100均の簡易トイレでは時間が経つと臭う。 ・トイレは1人につき1日5回×3～7日を想定しているため、防臭袋は多めに備えておくこと。 ・既存のトイレを使用する場合は、トイレにビニール袋をかぶせ底に吸水材（新聞紙など）を敷いて用を足す。（下図参照） ・毎回流せず換気扇も回せないなので、臭いがこもりやすい。芳香剤や消臭スプレーの準備が必要。 ・トイレトペーパーは深刻な供給不足になる恐れが。普段から1カ月分を余分に備蓄しておく。 ・におい対策として、生ゴミや紙おむつなどをラップで包むとにおいが抑えられる。 ・体験後はビニール袋に包んでゴミの日に廃棄。 ・猫砂に用を足し、ビニール袋に入れて廃棄。 <p>※その他、ウェットティッシュ、生理用品、赤ちゃん用のお尻拭きや紙オムツ（オムツ離れをした子どもにも有効）など、衛生用品の備蓄も忘れずに。</p>

非常用トイレの作り方

4人家族が10日間にトイレを利用する回数は約200回。自宅のトイレを利用した非常用トイレの作り方を、汚物の処理方法を含めて事前にマスターしておきましょう。

使用前



使用后



Bを取り出し、
しっかり口を
しばる。



消臭剤ととも
に密閉容器に
入れる。

水が使えないときの代替品	用途
紙皿、紙コップ、プラスチック製のスプーン、フォーク、割りばしなど	<ul style="list-style-type: none"> 紙コップや紙皿は大量に準備しておくこと。 災害時はゴミも大量に出るのでゴミ袋のストックも確認しておくこと。
食品用ポリ袋	<ul style="list-style-type: none"> 手にかぶせて手袋代わりに 調理する材料を混ぜ合わせるボウル代わりに お椀にかぶせて洗い物の削減 大きく厚目の袋は水の運搬用に
ラップ	<ul style="list-style-type: none"> おにぎりなどを直接触れずに作るために お皿に敷いて洗い物の削減に
アルミホイル	<ul style="list-style-type: none"> 熱いものをのせるお皿として フライパンに敷いて使用 落とし蓋代わりに
クッキングシート	<ul style="list-style-type: none"> フライパンの焦げ付き防止に
キッチンペーパー	<ul style="list-style-type: none"> 布巾やタオル代わりに
除菌スプレー	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い用の水の代わりにや身の衛生確保に

停電

電化製品(使用不可)	代替品
冷蔵庫	クーラーボックス
掃除機	コロコロ、ウエットシート 充電式掃除機 ・ほうきやちりとりもあると良い。
テレビ	スマホ(充電しておく)
電子レンジ・炊飯器	
照明	懐中電灯、ヘッドライト、ランタン、乾電池 ・ライト、灯器類は部屋に一つずつ置き、さらに一人に一つあると安心。 ・ペットボトルのラベルを剥しスマホの上に置くとランタン代わりになる。 ・乾電池は腐食していないか確認。予備は多めにストックしておく。

電話・スマホ	※体験期間は受信はできるが発信はしないこと
ラジオ	携帯ラジオ ・最新の災害情報や給水車などライフラインに関する情報も入手できる。

ガスの供給停止

燃 料	カセットコンロ & ガスボンベ <ul style="list-style-type: none"> ・ボンベは1本で約2時間使用なので、十分なストックが必要。 ・使用期限（コンロ：約10年、ボンベ：約7年） ・保管場所は、災害時に上から落ちてきてけがをしないよう低い位置の棚に収納。コンロとガスは同じ場所に収納しておく。
-----	---

<注意事項 ②>

- ① 自宅避難に必要な備蓄品は1箇所にまとめて保管しておく、その場所が災害で被害を受けた場合、すべてダメになってしまいます。リスク分散のため『1階と2階に分ける』など、いろいろな場所に保管しておくことをおすすめします。
- ② 家族間で決めておきたいルール
 - ・懐中電灯、ライトなどの使用方法、設置場所
 - ・水の使用方法・用途、量、トイレの水を流すタイミング
 - ・食事の計画など
- ③ 室内を安全にする
 - ・落下しやすい場所に物を置かない。
 - ・ドアや窓などの避難するための出入口が塞がらないように、家具などの配置を工夫する。
 - ・家具が転倒や移動しないように固定する。
 - ・動く可能性があるものは、滑り止めを付けたリベルトなどで繋ぐ。
- ③ 地震が起きたときはガラスなどが割れて、部屋の中に破片が散らばります。足をケガしないように、リビングや寝室にもスニーカーを用意するように。外から帰宅する場合でも、靴を脱がずに土足のまま入りましょう。

<その他>

- ・夏場は暑くて窓を開けることになるので、蚊取り線香が必需品に。

資料HP: 日本財団／イラストで学ぶ防災の知恵(2023)

★ あなたの体験を「安全委員会 LINE」にお寄せください（締切／7月31日）★

<記入事項>

- ・町名 ・本人年齢 才代 男性 女性
- ・本人以外の参加者 大人 名 こども 名(才 ・ 才)
- ・実施日 月 日 時 分 ～ 月 日 時 分
- ・気温／ 度 天気／晴 曇 雨

<記入例>

- 参加者に子どもがおられる場合は、年齢を記入してください。例／子ども2名(5歳・8歳)
- 時間／7月6日12時～7月7日12時のように2日間にまたがっても OK です

<体験内容記入例>

17 時開始・停電、懐中電灯を2本使用(リビング・トイレ) 18 時～食事の準備 カセットコンロを
使用して調理 食事は紙コップや紙皿 翌7時 歯磨きシート使用など

- ・当日を迎えるまでの準備物
- ・当日を迎えて大変だったこと・不便だったこと
- ・これは便利だと思ったグッズ
- ・気づきや学び・感想など

※体験内容は「連合会だより」に掲載させていただき、今後の災害対策に役立たせていただきます。
なお掲載については、原文を一部修正・加筆する場合があります。あらかじめご承知ください。